



編集・発行

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL : 072-957-2121

FAX : 072-958-3291

H P : <http://www.ra.opho.jp>

E-mail : kokyucen@ra.opho.jp



来春のスギ花粉症の傾向とスギ花粉症緩和米の臨床研究のご紹介

臨床研究部 主任部長 橋本章司

スギ花粉症の患者数は年々増加の一途で、推定3,000万人以上、今や国民の4人に1人が発症しています。昨年春と今春の西日本のスギ花粉の飛散量は例年の約半分でしたが、今夏は高い気温と長い日照時間で花芽が多く形成され、来春の飛散量は今春の2～3倍に増加する予想です。

花粉症の治療には、くしゃみ・鼻水・鼻づまりが出てから開始する「対症療法」、飛散前から開始して症状を軽減する「初期治療」と、花粉アレルゲン抽出物をアレルギー誘発に注意し、皮下注射や経口で数年間反復投与して症状を軽減する「免疫（減感作）療法」があり、今回は、毎日食べ続けて身体を慣れさせてスギ花粉に症状を軽減する『スギ花粉症緩和米』のお話です。

花粉症では、花粉アレルゲンの「目印（ペプチド）」をTリンパ球が認識することで花粉特異的なIgE抗体の産生が始まり、数年かけて増加し、鼻や眼の粘膜の肥満細胞に結合します。そして、

このIgE抗体に花粉アレルゲンが結合し、肥満細胞がヒスタミンを放出して発症します。農林水産省（農研機構）が遺伝子組み換え技術を用いて開発した『スギ花粉症緩和米』は、花粉アレルゲン自体ではなく、この「目印」を大量に含み、アレルギーを誘発せず、胃で分解されず腸の免疫系に直接働きかけて、IgE抗体の産生と症状を抑制することが期待されています。当センターでは、今秋から職員・家族の方などを対象に、この『スギ花粉症緩和米』の臨床試験を開始しています。重症アレルギー患者さんの症状軽減と「未病」の方の発症予防につながれば良いですね。



麻疹の集団感染

感染症内科 主任部長 永井 崇之

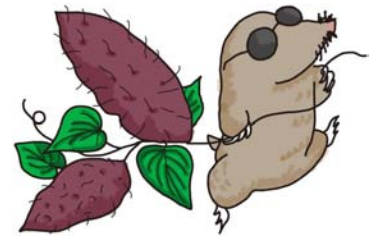
先日大阪を中心に麻疹の集団感染が発生いたしました。その時の事です、患者様より問い合わせが、「ワクチンが有効だと聞きましたが対応できますでしょうか」と。電話の先の方はご年配の様子。「おいくつの方ですか」と尋ねましたところ、「70歳です」との返答。「昔はしかにかかったことはありませんか？麻疹とははしかのことですよ！」と説明しましたところ、「そうだったんですか～」と一件落ち着いたしました。

麻疹＝はしかのことなんです。

麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の感染症のことです。感染力が非常に高く、手洗い、うがい、マスクなどによる感染防御はできません。空気、飛沫（咳によるしぶき）、接触により感染、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症してしまいます。10-12日の潜伏期間後風邪のような

咳や熱などの症状で発病します。厄介なことに、この発病の前日から他への感染性が出現します。かつて日本は麻疹輸出国とWHOより指摘を受けました。しかしながら予防接種による対策を強化し、平成27年には麻疹排除状態との認定を受けるに至りました。現在海外由来型による発症が散見されている状況です。発症を予防するためには予防接種が有効です。

海外旅行前には予防接種を考慮すべきですので医師に相談ください。一度かかったことが確実な方は免疫をもっていますので予防接種は必要ありません。



〈薬局シリーズ⑪〉 お薬の管理について

盛谷 友梨

院から処方されたお薬はどのように保管していますか？錠剤シートを1錠ずつバラバラに切って保管したり、次の日のお薬をシートから取り出して準備したりしていませんか？

お薬を1錠ずつバラバラにすることで、管理しやすいというメリットはありますが、誤ってシートそのまま飲んでしまい、のどなどを傷つける可能性があります。この誤飲事故は、年間10件前後発生しており、60～80代で約8割を占めていますが、50代でも10%程度あり、高齢者だけの事故ではありません。誤飲を防ぐためには、お薬はバラバラに切らずに、錠剤シートから直接取り出すようにしましょう。

また、お薬の中には、光や湿気に弱いもの、冷蔵保存が必要なものなどがあります。これらのお薬を正しく保管していないと、変色したり、お薬の効果がなくなってしまう可能性があります。特に、アルミシートで包装されているものは湿気に弱いお薬が多く、赤色のシートで覆われたものは光に弱いお薬が多いです。これらのお薬は、飲む直前にシートから取り出すようにしましょう。お薬も食べ物と同じで使用期限があります。使用期限を過ぎると、お薬は本来の力を発揮できなくなります。また、医師はその時の患者さんの状態に合ったお薬を必要な分だけ処方しています。

自分の判断で飲むのをやめて余ったお薬を、次によく似た症状が出た時に使うと、薬が効きすぎたり、副作用が出る可能性があります。処方されたお薬は医師の指示どおりに飲み切ることが大切です。



おくすりは、包装シートから取り出してお飲みください。



▶包装シートの誤飲の事例が増えています！

◆◆◆11月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	11月 2・9・16・30日	午後 1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	11月 4・11・18・25日	午前10時～11時	第2会議室
◆乳幼児アトピー教室	11月 4・11・18・25日	午後 2時～3時	第2会議室

◆◆◆12月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	12月 7・14・21日	午後 1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	12月 2・9日	午前10時～11時	第2会議室
◆乳幼児アトピー教室	12月 2・9日	午後 2時～3時	第2会議室